

事務事業名	ごてんばコシヒカリブランド化推進事業	整理番号	41104-000
所管	農林課農政スタッフ		

●事務事業の位置付け

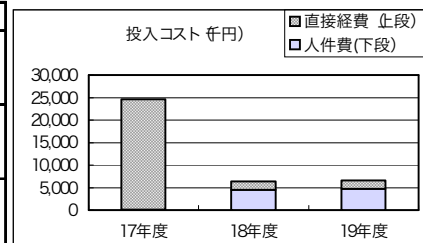
期間	平成17年度～平成年度	根拠法令・要綱等	
基本計画における位置付け	基本政策 4-1 魅力ある農林業の振興 政策 4-1-1 農業の振興	関連政策	

●事務事業の内容

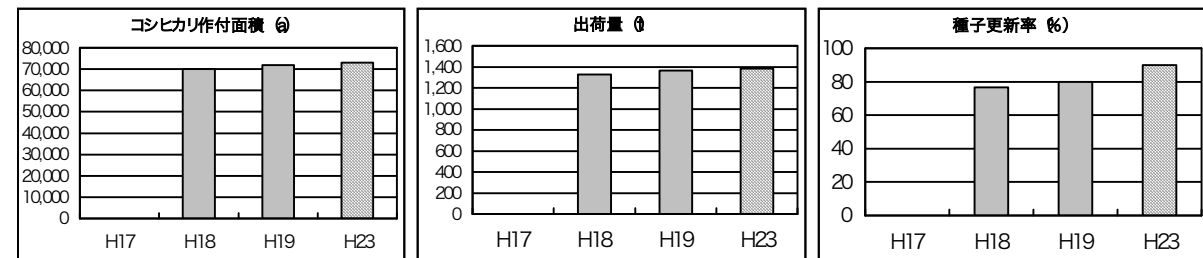
目的 (何のために)	ごてんばコシヒカリのブランド力を高め、米作りの収益性向上を図る。
対象 (誰・何を)	農業者、農業団体
手段 (どのようなやり方で)	種子更新100%、栽培管理の均一化を目指すとともに、食味の向上につとめ、トレーサビリティの一層の推進を図る。また、販路拡大のため、パン、うどん等に使用するための「製粉機」を購入助成し、米粉の活用も推進する。
成果 (どのような状態にしたいか)	ブランド化による米作りの収益性向上は、米作りが継続して行われることとなり健全な産業としての農業の屋台骨を支えることであり、また、農地の活用保全是、地域環境の保全是にも多大な寄与となる。
事務事業の背景・住民の意向	平成17年度ユビキタス事業（マッピングシステム）、平成18年度色彩選別機・精米機の設置により、産地間競争に参加可能となった。よって、JAとタイアップし、売れる米づくり（安心、安全、食味向上）のため、ブランド化を目指す。
見直し改善の経過	

●事務事業の実績・投入コスト

年度	事務事業実績
平成17年度	トレーサビリティシステムの導入
平成18年度	種子更新率 76.6% 農家の購入経費の10%を補助
平成19年度	種子更新率 80.0% 農家の購入経費の10%を補助



●評価指標



●事務事業の評価

観点別・一次評価 (担当部署の評価)		コメント	
観点別評価	必要性	★★★★★	食味の良い売れる米作りを推進することにより「ごてんばコシヒカリ」のブランド化を図りつつあり、今後、米粉の活用も期待できる。
	有効性	★★★★★	
	効率性	★★★★★	
一次評価	A	★★★★★	今後の方向性 継続
二次評価 (行政評価委員会の評価)		コメント	
二次評価	B	☆☆☆	ブランド化は既に進んでいるが、今後農協などと連携して、ブランドを全国に発信していくために市がやるべき方向を明確にしていく必要がある。
		今後の方向性 手段改善	

●改革プラン

平成20年度からの対応	引き続き種子更新100%を目指すとともに、トレーサビリティシステムの効率的な運用と、販路拡大のための製粉機の導入について検討する。
平成21年度以降の対応	引き続き、種子更新率100%、栽培管理の均一化を目指すとともに、食味の向上につとめ、トレーサビリティの一層の推進を図る。また、販路拡大のための方策についてもJAと協議しながら進めて行く。
改革により予想される成果	消費者ニーズ、市場動向を基にした米の生産を行い、生産者自らが生産、流通、販売を考えた売れるこめづくりにつながる事となる。